

令和2年度 学校経営に関する自己評価(職員用)



R2重点項目
()内数値はR1

4...よく当てはまる 3...やや当てはまる 2...あまり当てはまらない 1...当てはまらない

重点項目	児童の確かな学力の定着と、自ら学ぶ意欲や思考力の育成	
評価項目	評価	成果と課題
1	1	<p>【算数ステップ/読書の習慣化】 △ステップが計画的に進められていない。担任の準備では、負担が大きいのではないか。 ○モジュールがあつて助かった部分がある。 テスト返しや少しプラスで行いたい学習内容などが15分間で行えたのは大きい。</p> <p>【書く力をつけるための指導】 ○日常の中で書く活動を多く取り入れてきた。自分の思いを表現したり、正しく書くために視写をしたりしてきた。その結果、書くことへの取りかかりが早くなったり、文字を正しく書いたりすることへの意識が高まってきたように感じる。引き続き、ノート指導や日記、作文などに取り組み、書く習慣を身に付けていきたい。 ○日記を継続して書くこと、授業やなかよし交流などで関わってくれた人に向けて手紙を書くこと、ノートでの漢字練習指導等を通して、日常的に書くことの習慣がついてきているように感じる。 ○短くてもよいので、目的をもって手紙を書く機会を多く設けた。同じ形式で繰り返し書いているため、自信をもって短時間で書くことができるようになった。 ○ノートを見合ったりよいところを褒め合ったりすることで、一人一人のノートに書く力が伸びてきている。 ○毎日の予定や振り返りを書く習慣が付き、書くことへの抵抗感がなくなってきている。また、同じ文字を繰り返し読んだり書いたりすることで書ける漢字が増えてきた。 ○5W1Hとどう思ったかを落とさず書けるように欄を設けたことで意識して書くことができている。 ○書くことに対するの苦手意識が減少するような手立て(タブレットや水筆の使用)をとったことで、苦手意識の軽減につながった。 ○作文に書く前に感じたことや知ったことについてメモを作成するなど、段階を踏んだ指導をしたことで、自分で書いたという達成感を味わわせることができた。 ○漢字テストの計画的な実施により子供たちの学習習慣が身に付き、平均点が伸びた。 ○日頃から既習漢字を使用してノートに書くようにしたことで、漢字への意識が高まった。 ○ルーティンで取り組む活動を組んだことで、字形を整えて文字を書くことを意識することができた。 ○△授業で書く場面を作る以外に、毎日帰りの会の時間に5行日記を書く活動を続けてきた。思いや考えを書くことに慣れ日常化してきた児童がいる反面、書くことをかたくなに嫌がる児童もいる。 △平仮名中心の記述からの変容をねらった作文の宿題を毎日提示しているが、学習時のノートの記述などでは生かされていない。 △作文を書き慣れていないということが、苦手意識を誘発していると感じた。このくらいの文章ならこのくらいの時間で書けるという見通しが必要だと感じた。 △書くことに抵抗感を感じたり、何を書いたらよいか迷ったりする子が多く、一度に書くことのできる作文の文章は少ない。 △「は」「を」「へ」や拗音、促音の基礎基本については身に付いていない児童が多いと感じる。身に付けられるように繰り返し指導していきたい。</p>
2	2.6 (2.9)	<p>【家庭学習の取組】 △漢字練習ノートの取組によって漢字力が向上したと感じている保護者はあまりいなかった。テストで点数がよくても、作文や日記では使用できないことへの心配の声が多かった。 △確実に、学年×時間 を家庭学習で行う意識づけをつけていきたい。高学年で、50分、60分の学習課題を学校から出すのは現実的ではない。宿題は低学年の頃は必要かと思うが、高学年になれば、宿題から家庭学習に変えていけるようにしていかなければならない。</p>
3	3.3 (3.2)	<p>○いろいろな方と関われることは、学力向上の面だけでなく、温かな言葉をたくさんかけていただけることが自己肯定感を高めることにつながり、とてもありがたく思う。</p>
4	2.9 (3.0)	<p>【教育課程の整備・改善(外国語活動への対応を含む)】 ○外国語専科が入ることで、教材の蓄積が進み、次年度以降にもつながる。縦のつながりを意識できることもよい。継続して入っていただけると、成果が表れていくのではないかと感じる。</p>



重点項目	児童の豊かな心の育成	
5 →	校内指導体制を確立し、共通理解・共通行動を図り、全職員で指導する。特に問題行動に対しては、すばやく対処し、解決を図っている。	<p>2.9 (3.2)</p> <p>【児童指導に関する校内指導体制の確立】 ○単級である中、担当学年以外の児童にも積極的に声をかけることができたことは、成果だと思ふ。 △児童指導部の案件なのか、支援部の案件なのか、管理職が対応する案件なのかがよくわからず、出しゃばってしまったことで、組織に混乱を招いてしまった。</p>
6	人権教育推進研究の取組を通して、教職員・児童・保護者・地域が一体となって人権感覚の醸成を図っていく。 アンケート調査、Q-U検査等による情報収集と実態把握、それに基づく児童指導の充実を図り、いじめのない楽しい学級づくりが進められている。	<p>3.0 (3.0)</p> <p>【人権教育推進研究の取組】 ○児童間の呼び方に「さん」が定着している。そのことで、授業と休み時間のスイッチの切り替えができていく。 △コロナに関わり、新たに配慮すべきことが出てきた。児童にどのように考える場をもたせていくか、指導の方向性を早急に出したい。 【いじめのない学級づくり】 ○人権擁護委員さんに来ていただけたことは、いじめに関する学習の機会となり、とてもよかった。来年度も引き続きお願いしたい。</p>
7	不登校傾向の児童に対して、朝の家庭への連絡、家庭訪問や保健室登校といった対応、さらには地域の協力者、専門機関と連携を行うことにより、登校へ向けて組織的に取り組んでいる。	<p>3.4 (3.4)</p> <p>【不登校傾向の児童への対応、SCや専門機関との連携】 OSCが校内を回って児童の様子を見たり保護者に声をかけてくれたりして実態の把握をしてくれた。 △多く関わってくれているSCと学校とで取り組みの方向性が同じになるよう、情報交換の場をもっとつづけていきたい。</p>
8 →	各学校行事の充実を図ることにより、児童にとって潤いと活気のある学校生活が保障されている。 基本的な生活習慣(あいさつ・礼儀・時間を守る等)の確立を図っている 携帯電話・ゲーム時間の管理の指導について家庭と連携を図っている。	<p>2.6 (2.8)</p> <p>【行事の充実】 ○今年できる形ではあったが、ミニ運動会や遠足等の行事を実施できた。例年と違う形でも、多くの保護者の方に温かく見守り、児童のがんばりや成長を見つめてくださったことがありがたかった。 【基本的な生活習慣の確立】 △外部のお客様が来られたときにはよいあいさつをするが、すれ違う支援員さんや工事関係の方へのあいさつはあまり聞こえてこない。 △学習中以外の時間のあいさつについては課題が残る。登下校時のあいさつ、来客時のあいさつ等、できない児童が多い。 △ラインやゲームでのトラブルが多いが、その指導が学校全体として取り組むことができなかった(コロナの影響で)。</p>
重点項目	児童の健康づくり、安全の確保	
→	安全で充実した教育活動を保障するために、施設、設備面での改善や、登下校時の安全の確保が図られている。	<p>2.8 (2.8)</p> <p>【施設・設備面での改善(校内外)】 ○網戸がつき、蜂が入ってくる心配がなくなって助かる。 △様々な場所の傷みが気になる。体育館の床材、廊下の床等…。 【登下校の安全の確保】 △登下校のコースを確定させたい。大道を走って登校している子もいるので、そのあたりの危険性も喚起していきたい。 △登校時刻より早く登校している児童が遊具等を使用して遊んでいることが気になる。安全確保の面からも、遊ばずに昇降口近くで待つことを指導する必要があるのではないか。</p>
→	家庭と連携し、食育を中心とした健康づくりや、望ましい生活習慣の定着を中心とした健康管理が進んでいる。(学校保健委員会での取り組み、家庭への啓発活動)	<p>3.0 (3.2)</p> <p>【食育を中心とした健康づくり】 ○ぱくぱくランチの内容がとても素敵。献立も、食を通して季節の行事を知ることができる。授業内容が増えた中で、そのような季節の行事を楽しむ時間をつくるのが難しい時もあるので、自然と「今日は冬至だね。」と子供たちに声を掛けるタイミングを作っていただけたことがとてもありがたかった。 △せっかくのぱくぱくランチをもっとしっかり聞けるように指導したい。 【学校保健委員会での取り組み、家庭への啓発】 ○タイムリーな取り組みができたのは良かった。当日テレビへの接続問題が多かったので、来年度の学校保健委員会の持ち方はまた検討したい。</p>

重点項目		職員の指導力向上と校内研究の推進・幼小中12年間の教育	
11	幼(保)小中連携研究を進める中で、12年間を見通した教育内容の厳選と基礎・基本の定着が図られている。 幼小中連携と学年の段階性と連続性を図る。	2.8 (2.8)	【校内授業研究(連携教育)】 ○回数は少なかったが、中学校の校内研究会に参加することができ、中学校の授業の様子を直接見られたことはよかった。 △めざす子供の具体的な姿を、幼・小・中で共有できているかについては課題が残る。 【交流等の行事】 ○コロナウイルス感染症の関係で各園、学校での取り組みになったが、活動のねらいや方法について情報共有しながら、できる範囲でも実施できたことはよかった。
12	校内研究の授業を行うことや初任研や年次研に全員で取り組むことが、職員個々の指導力の向上につながっている。	3.0 (3.2)	【校内授業研究】 ○指導案を書く作業は、普段の指導についても振り返り、それがなんのためのことなのかと、思考を整理する作業になった。 ○教科を絞ることで、他の学年の学びを見ることができ、自分がうけもっているのは、6年間、12年間、15年間のうちの1年だということを意識できた。 △ブロックで指導案検討を行っているので、全員が授業研究をする必要はないのではないか。かなり忙しい日程となってしまった。 △校内研究が個人研究になっている気がしてならない。ブロックで練りに練った一本でいいのではないか。指導案を出されたものを検討するのではなく、指導案作成から携わったり、該当学年ではない学年が指導案を作成するなど、校内一丸となって研究に打ち込むことはできないか。
13	児童指導や支援教育、道徳の時間の校内研修により、個々の教師の指導力の向上が図られている。	2.6 (3.3)	【校内研修】 ○支援教育研修会に全職員が参加で事例研修を行った。支援の手立てについて多角的な意見が出された。
重点項目		地域協働・開かれた学校づくりの推進	
14	教育課と連携しながら地域協働の推進に全校で取り組み、地域の人材(保護者)の活用により、教育活動の充実が図られている。 地域と連携しながら教育活動を行い、「真鶴ふるさと教育」の推進を図っている。(海水浴体験、海の学校、真鶴絵画館等の取り組み)	3.0 (3.5)	【地域の人材(保護者も含む)を活用しての取組】 △ミシンボランティア等、コロナの影響でお願いできないものがあった残念だった。 【「真鶴ふるさと教育」の推進】 ○地域の方と関わる機会そのものが、キャリア教育にもつながっている。 △毎年やっているが、「まちづくりに参加」というところまで到達するには、もっと計画を練り、共通理解していく必要があると思う。
15	学級・学年・学校だよりの発行、ホームページの開設により、特色ある教育活動を公表し、保護者、地域に理解が得られている。 保護者教育相談、学校公開日の設定により、教育活動について保護者、地域に理解が得られている。	3.4 (3.0)	【学級・学年・学校だよりによる取組】 ○校長先生がホームページに定期的にアップしてくださるので、保護者の方も見えています!という声が聞こえるようになりました。ありがとうございます。 【保護者の教育相談、学校公開日の取組】